

研究説明書

1. 研究の題目

MASA を用いた摂食嚥下機能障害に対する検討（後方視的研究）

2. 研究の目的

本邦では急速な高齢化に伴い平成 23 年以降肺炎が死因の第 3 位となりました。高齢者の死因には誤嚥性肺炎が指摘されております。誤嚥性肺炎の一因となる摂食嚥下機能障害に対する評価では嚥下造影がゴールドスタンダードとされています。しかし、全ての患者様に対して VF が実施可能ではなく、ベッドサイド評価の充実が求められています。高齢の症例は認知機能の低下を来していることが多く、ベッドサイドで認知機能の評価や高次脳機能評価を含め包括的に嚥下機能の評価をすることが必要です。脳卒中患者に対する嚥下機能評価である The Mann of swallowing ability（以下、MASA）は認知機能の評価や高次脳機能評価を含め包括的に摂食嚥下機能の評価をされていますが、他の症例に限定した評価に対する報告は乏しいです。摂食嚥下機能障害症例に対して介入時、嚥下造影の実施時に合わせて MASA を用いて評価し、MASA と嚥下造影の結果を比較検討いたします。

本研究では患者様に痛みや侵襲を与えることはありません。

3. 研究対象

対象：

- ・嚥下機能評価、訓練を目的に言語聴覚療法の介入があり、嚥下造影を実施し十分に評価可能であった患者様

4. 研究方法

1) 検査項目

- ・基本情報として年齢、性別、体重、BMI をカルテより把握します。
- ・生化学検査として必要項目をカルテから把握します。
- ・嚥下機能評価として改訂水飲みテスト¹⁾、MASA²⁾ を測定します。
- ・日常生活動作の評価として Barthel Index³⁾ を評価します。10 項目からなり日々の動作から客観的に評価します。
- ・認知機能検査として Mini-Mental State Examination⁴⁾ を評価します。11 項目からなる質問形式の検査です。
- ・栄養評価として Geriatric-nutritional-risk-index をカルテより評価致します。

注 1) : 改訂水飲みテスト

3ml の冷水を飲んで頂き、ムセの有無や飲み込んだ後の声質で 5 段階に評価致します

注 2) MASA

24 項目 200 点満点の摂食嚥下機能評価です、意識レベルや協力動作、言語機能、口腔の動き、実際の食事場面での評価を総合的に評価し、点数をつけさせていただきます。

注3) Barthel Index

実際の日常生活動作を評価し、10項目100点満点で評価させていただきます

注4) Mini-Mental State Examination

11項目30点満点からなる認知機能評価です。質問形式で評価させていただきます

2)検査時期

介入時、嚥下造影実施時に加え必要に応じて評価を実施します。

3)検査場所

松阪市民病院リハビリテーション室

5. 本研究の意義

ベッドサイド評価を充実させ、エビデンスを蓄積することで安全に、早急に経口摂取を再視することは臨床的意義があると考えております。

6. この研究への参加について

この研究への参加は自由であり、患者様の意思に基づくものです。不参加の場合でもリハビリテーションは従来通りに行われるため、患者様に不利益をもたらすことはありません。また、同意した後でも、患者様の意思で研究への参加をいつでも中止することができます。途中で中止した場合もリハビリテーションに関する全てにおいて不利益をもたらすことは何也不会ありません。

7. プライバシーについて

すべての貴方のプライバシーに関する秘密は注意深く保持されます。また、記録は松阪市民病院リハビリテーション室において半永久的に責任を持って保存致します。患者様の自由意志に基づき、その可否を判断頂くことが可能です。この研究についてわからない点や不安な点があればいつでも担当者にご質問ください。

研究責任者：天白 陽介（松阪市民病院 リハビリテーション室）

松阪市民病院 リハビリテーション室

〒515-8544 三重県松阪市殿町 1550

電話 0598-23-1515